

# 日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ)

## 2021 年度 事業報告

(2021 年 7 月 1 日～2022 年 6 月 30 日)

### 【2021 年度の全体総括と報告概要】

2021 年度は、国内ではコロナの感染拡大が収まらず、2 月にはロシアのウクライナ侵攻、そして世界的な異常気象という不安定な社会情勢のなか、前年同様理事 5 名、監事 1 名、そして認定委員 9 名にて運営を行った。

今年度は新規のタウン・大学の認定はなかったものの、各地のタウン・大学の更新申請が行われた。また、タウンを目指す地域も増え、イベントなど活発に行われた。

組織体制及び財政基盤の強化にむけて、まちづくり事業に着手したが、対象エリアとのタイミングが合わず現在延期状態となっている。他方、管理面については、プロボノの専門家知見を様々なタイミングで借りることができ強化できた。

認定委員会との意見交換を経て、タウン基準の指針見直しなどに着手し、2022 年 6 月 30 日に臨時総会を開催し、指針を変更した。

今年度は理事会を 5 回開催した。

また、本事業年度終了時の会員の状況は以下の通りとなっている。

	個人	組織	フェアトレードショップ	合計
正会員	25	17	3	45
賛助会員	6	8	2	16
合計	31	25	5	61

定款第 4 条（事業）の分類に従って、2021 年度は以下の事業を報告します。

### 1) フェアトレードの普及および啓発に関する事業

#### (1) オンライン交流会イベントの開催

昨年に引き続き、フェアトレードタウンを目指す、関心のある人への普及・啓発にむけてオンラインイベントを開催した。

#### ○ 「フェアトレードタウン 6 都市×FTFJ×FLJ<sup>1</sup>」開催（フェアトレードタウン認定都市対象

- 日時：2 月 3 日 19:00～20:30
- 場所：オンライン
- 5 月フェアトレード月間のイベント準備が本格的になる時期に、6 タウンと FLJ が情報交換できる場を設定。各タウン近況、昨年のキャンペーン取組み、今年のイベントの予定を共有、FLJ からキャンペーン企画説明など。（※1 特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン）

#### ○ FTFJ 会員限定「オンライン交流会～目指せ！フェアトレードタウン vol.1～」開催（フェアトレードタウンを目指す地域の方を対象）

- 日時：2 月 8 日 19:00～21:00
- 場所：オンライン
- フェアトレードタウンを目指す地域の皆様との質疑応答・情報交換の場を作り、応援・交流を

<sup>1</sup> 特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン

図る目的の交流会を開催。金沢市、武蔵野市、千葉市、館山市、垂井町、長野市の方々などが参加した。アドバイザーとして、フェアトレードタウンである逗子市から長坂氏、熊本市からは申氏が参加。

(2) フェアトレードタウンまちづくり事業の実施

財政基盤の強化及び、フェアトレードタウンを通じて一般市民への普及を目的として、計画を実施した。

プロボノの専門家によって、収益事業にあてはまらないことを税務署に確認。

8月15日に「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」と事業実施に向けた基本合意覚書を締結した。

プロボノ参加により「広報、ランディングページのドラフト デザイン、フィードバック、企画、類似事業 SVP の元スタッフからの情報収集」などを行い 12 月上旬から募集予定で計画を立案した。

一方で、「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」の今後の優先課題や取り組みの方向性が定まっていないという理由から、双方協議の上、現時点でまちづくり事業を通じた外部人材の活用は難しいという結論となり、事業は延期となった。

(3) 情報発信

○ 対外的な発信

プレスリリース配信サービスの「PR TIMES」を活用し広くオフィシャルに発信を行った<sup>2</sup>。

タイトル	配信日	PV <sup>3</sup>	転載サイト	参照サイト	集計期間
青山学院大学を国内 4 大学目となるフェアトレード大学に認定	2021/7/1	1437	22	10	2021/7/1-2022/06/30
フェアトレードを通じて SDGs 達成を目指す自治体や大学が世界中で増加 「フェアトレードタウン」「フェアトレード大学」認定数が過去最大に一	2021/12/29	1482	32	5	2021/7/1-2022/06/30

○ 組織の内部にむけての情報発信

内部広報のために、FTFJ の HP に会員向けポータルサイトを作成（10 月 27 日）正会員及び賛助会員の皆様への情報共有を目的に、2 月 10 日より公開。会員限定ページでは、理事会及び総会議事録や、フェアトレードタウン・大学に関係する資料の掲載をおこなった。

会員向け音声メディアを企画。インタビュー録画を試作したが、編集や配信方法の詰めまで至らず。実施の検討を次年度に繰り越し。

(4) 各地のフェアトレード・イベントでのセミナー開催／後援／登壇

○ フェアトレード・イベントへの登壇など

今年度も各地のフェアトレードのイベントなどに、FTFJ の役員が登壇など行い普及に努めた。

タイトル	登壇日・実施日	内容
「垂井町フェアトレード講演会」フェアトレードタウン垂井推進委員会主催	2021/11/3	代表理事が講演
「フェアトレードシティくまもと 10 周年フェアトレード国際フォーラム 2021」	2021/11/13	理事、監事 6 名が分科会のファシリテーターを務めた。

<sup>2</sup> 「PR TIMES」管理ページ内、分析データより算出

<sup>3</sup> 「ページビュー」

「おおぶシネマルシェ」 おおぶフェアトレードタウン推進委員会主催	2021/12/11	代表理事が講演
「フェアトレードむさしの勉強会（オンライン）」フェアトレードむさしの主催	2022/1/29	代表理事が講演
「金沢をフェアトレードタウンに」フェアトレードタウン金沢推進委員会主催	2022/3/5	代表理事と高津理事が講演
「金沢フェアトレードフェスタ2022」フェアトレードタウン金沢推進委員会主催	2022/5/28	代表理事がファッションショーでトーク

○ 5月のFT月間のサポート

フェアトレードタウンとタウンを目指す地域からのフェアトレード・イベント情報を中心に、会員団体等の5月のフェアトレード・イベントを取りまとめ、FTFJのHPに27件のイベントを掲載した。

**2) 国内および国際的なネットワーク事業**

(1) 国際／国内フェアトレードタウン・ネットワーク等への参加

○ 「Asia-pacific region online meeting」を3か国で開催。日本から小吹監事が参加し、韓国、オーストラリアのnational coordinatorと、意見交換を行った。5/6

○ FLJ ミリオンアクションキャンペーンへの参加

FTFJも「特別協力」組織として協力し、フェアトレードタウンとタウンを目指す地域からのフェアトレード・イベント情報を取りまとめ、FLJ ミリオンキャンペーンのサイトに掲載。イベント情報を増やした。

1か月間続いたミリオンアクションキャンペーンは、5月31日に幕を閉じ、多くのフェアトレードに取り組む方や団体の協力のもと、無事に160万アクションを達成することができた。

**3) フェアトレードの理念を実現するための政府・企業セクターへのアドボカシー事業**

今年度は特に活動はなし

**4) フェアトレードタウンおよびフェアトレード大学等の類似イニシアチブの推進に関する事業**

(1) フェアトレードタウン／フェアトレード大学運動の普及

○ フェアトレードタウンを目指して活動している団体、市町村

- フェアトレードタウン垂井推進委員会（岐阜県 垂井町）
- フェアトレードタウン金沢推進委員会（石川県 金沢市）
- フェアトレードむさしの（東京都 武蔵野市）
- フェアトレードタウン世田谷推進委員会（東京都 世田谷区）
- フェアトレードがつなぐ未来 ダブルポートとまこまい（北海道 苫小牧市）
- おおぶフェアトレードタウン推進委員会（愛知県 大府市）
- フェアトレードちば（千葉県 千葉市）
- 館山フェアトレードタウン推進委員会（千葉県 館山市）
- 北九州エシカル推進ネットワークーエシカル種まき隊ー（福岡県 北九州市）
- にいがたフェアトレード推進委員会（新潟県 新潟市）
- さどをフェアトレードアイランドにしよう会（新潟県 佐渡市）
- フェアトレードタウン宇都宮をめざす会（栃木県 宇都宮市）

- 松江と出雲をフェアトレードタウンにする会（島根県 松江市）
- 岡山フェアトレードの会（岡山県 岡山市）
- フェアトレードフェスタ川口（埼玉県 川口市）

その他活動を確認している地域

- 石井町（徳島県）、和歌山市（和歌山県）、江東区（東京都）、長野市（長野県）、鎌倉市（神奈川県）

## 5) フェアトレードタウンおよびフェアトレード大学等の類似イニシアチブの基準等の策定ならびに認定に関する事業

### (1) フェアトレードタウン／大学の認定・更新

#### ○ 認定

今年度は新規の認定は無し

#### ○ 更新

- 静岡文化芸術大学 更新（2021年10月27日）  
（前年度の2021年1月に更新期限のところ、フォーマット準備等の遅れにより受付が遅延。次回更新の有効期限を延長した）
- 名古屋市 更新（2022年6月2日）  
（2021年9月に更新期限のところ、申請受理が2022年2月大幅まで遅延。次回更新の有効期限は、元の期限から3年後を維持）

#### ○ 更新審査中

- 熊本市 更新審査中（2022年8月23日更新）
- 札幌市 更新審査中（2022年8月23日更新）

#### ○ 2022年度更新 申請受付

- 逗子市
- いなべ市
- 札幌学院大学
- 北星学園大学・北星学園短期大学部

### (2) 認定更新の制度見直し

- FT大学についての基準3の指標（大学当局によるFT製品の購入）について、実績のみでなく1年以内に計画がある場合を加えた。また、基準2、3、5の中で、意図が伝わりにくかった文言等を修正（9月21日の定時総会にて決議）
- FT大学の基準改定に合わせ、申請書類を見直し、簡素化を図った。
- コロナ下での現地調査の方法について認定委員会と協議、オンラインでの調査も可能に変更
- 現地調査報告書、審査報告書の公開ルールの検討＞現地調査報告書は非公開。審査報告書は申請者に開示すると共に、申請者の同意が得られた場合は会員ポータルサイトにて会員に開示（12月23日）
- FTタウン基準1の指針（フェアトレード推進組織の活動目的）および基準5の指針1）（フェアトレードの推進・普及を主な目的とする店の定義）指標1が現状にそぐわないため、文言を改定（2022年6月30日の臨時総会にて決議）
- 「第三カテゴリー」の承認について。特になし。（過去に各推進組織が認めた団体・商品の情報を開示する方法について、より公開を求める意見あり。見直しについて新年度に検討する）

### (3) フェアトレード・スクールの表彰制度について

表彰制度について、透明性・持続可能性などの観点から理事会にて討議を重ねた。

今年度は、協力をさせていただけるフェアトレード活動事例のある高校に声かけをして、登録フォームへの入力を依頼した。内容を整えて今後 HP に掲載予定。

- 愛知商業高校スネスコクラブ
- 南陽高校 Nanyo company 部
- 日本福祉大学附属高校 国際協力部
- 不破高校

## 6) フェアトレードの理念を国内および地域社会に実現するための事業

今年度は特に取り組み無し

## 7) 責任ある消費の普及等、公正かつ持続可能な社会創りを目指す活動や運動と連携した事業

### (1) 日本エシカル推進協議会等と連携した責任ある消費の普及

#### ○ 「JEI エシカル基準」策定に参加

明確な定義や基準がないまま広がりつつあるエシカルについて、日本エシカル推進協議会（JEI）が主体となり、エシカルに関わる様々な分野の専門家とともに、自己採点形式のエシカル基準を策定した。そのワーキンググループに、理事2名と顧問が参加し、エシカル基準にフェアトレードの視点を加え、その基準を広めるための連続講座でも、3名が講演をした。

#### ○ 「JEI エシカルフォーラム@名古屋未来環境 EXPO2022」（5/12）を代表理事が企画運営で協力した。

#### ○ 代表理事が「日本エシカル推進協議会」の理事として理事会・総会に1年間参加

### (2) 「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」への参加

2022年3月17日にオンラインで開催された「企業のエシカル通信簿」2021年度結果発表会に、小吹監事が参加。フェアトレードも含めた、人権・労働分野での企業の取り組みについて報告を行った。

### (3) 消費者庁、徳島県教育委員会、徳島県が主催する「エシカル甲子園」への参加

徳島県教育委員会・徳島県が主催で、高校生のエシカル消費の推進や実践の活動を発表する場を設け、全国から募集し、徳島県で2022年3月18日に、最終審査会を行った。フェアトレードの視点から審査員として代表理事が参加・コメントをした。

## 8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

### (1) 組織財政基盤の強化

組織財政基盤の強化にむけては、昨年から予定していたまちづくり事業が延期となったことで、現状を大きく改善することが叶わなかった。

一方、FTFJの理念に共感し、プロボノで参加してくれている方たちの力を借り、財務面・PRなど専門的な知識やアドバイスをもらうことで経費を削減できた。

また、助成金などの検討も行ったが、FTFJの活動に見合った助成金がみつからず、申請には至らなかった。

- スムーズで円滑な会費集計を通じた管理体制の強化を目的に、「ロボットペイメント」という決済システムを試験的に導入した。2022年度以降、本格的に導入予定としている。

- ロボットペイメントの導入によって、今後サポーター制度の新設などFTFJとの関わり方を多様化することが可能となった。来年度に順次準備を予定している。

### (2) 組織体制の強化

認定委員との意見交換の場を複数開催し、認定に向けての課題を共有、プロセスの見直しを行っ

た。来期は認定業務が増えるため、フェアトレードの専門的な知識を持つ人材の増員を検討中である。

また、理事会の組織運営についても、財務に明るい人材、タウン認定都市からの人材の登用を検討し、より多様性のある組織にし、来期に向けて体制を強化したい。

以上